

## 柏市北部地域における居住環境の変化に関する住民の意識調査 ～常磐新線の建設に伴う開発プロジェクトに対して～

953331 寺田 晃  
指導教員 成田 健一

1. はじめに 千葉県柏市の北部地域は、私が生まれてから今まで育ってきた緑豊かな景観のいい農村地帯である。現在この地域では、平成17年の常磐新線の開通予定に合わせ、鉄道整備と宅地開発を同時に進行させる大きなプロジェクトが進められている。しかし住民側は、開発に対して無関心な人や、関心はあっても何をすべきかわからない人が多いという現状がある。

そこで本研究では、継続的なアンケートという形式を用い、住民に環境やまちづくりのあり方について学習してもらい地域居住環境への関心・認識を高めてもらうこと、および継続的なアンケートという手法の有効性を探ることを目的とした。

2. 柏市北部地域の状況 平成3年10月から事業説明会を実施したが、北部地域を中心に反対運動が激しくなったため一時中断した。平成4年9月から説明会を再開したが、現在も住民から白紙撤回・区画整理区域からの除外・減歩ゼロを求めた意見書や陳情書が提出されている。しかし最近では反対し続けて7年間も経過し、半ば、諦めているという人も多い。

3. アンケート調査対象地域の選定 柏市北部地域の中で、常磐新線柏市北部東駅の周辺でもあり、特に反対運動の激しい小青田、大室、船戸地区の3地区に絞って調査を行うこととする。調査対象地域を図1に示す。

4. アンケートの目的 第1回アンケートは、住民の意見の収集という目的があったので、調査対象地域内の全ての世帯に依頼した。第2回アンケートは、第1回アンケート集計結果から他の住人の考えを報告したうえで、まちづくりのあり方などをこちらから提案し、開発に対する意識を向上させるという目的で行った。そこで第1回アンケート回答者はもちろん、回答してもらえなかった人にも、第1回アンケート集計結果報告とともに改めて依頼した。依頼方法としては、各家庭を直接訪問し、必ず口頭にて説明し手渡しとした。

### 5. アンケートの結果

(1) 第1回アンケート 168世帯訪問し、51世帯に配布し、21名から回収できた。質問として、地域に対する評価、開発に対してどのような考えを持っている



図1 常磐新線予定路線地図および調査対象地域図

か、行政の対応はどうか、などの12項目について聞いた。「開発には賛成か、反対か？またその理由」を聞いたところ、賛成42%、反対26%、どちらとも言えない32%と、地域としては反対活動が行われている中、個人的には賛成という意見が意外にも多かった。

(2) 第2回アンケート 51世帯に配布し、9名から回収できた。質問の内容は、「住みよい街にするためには、行政のよい対応を望むばかりでなく、住民が高い関心を持ち、住民同士話し合う場を設け、地域全体の意見を形成していくことが必要ではないでしょうか？」というような提案などを挙げ、それについての意見を聞くといった形式で4項目について聞いた。その結果、開発に対して熱心に取り組んでいる人の回答からも、行政任せの姿勢が感じられた。最後に、「このような繰り返しアンケートは開発に対する関心・認識を高めるのに役立つと思うか」を聞いたところ、回答した9名中7名は「はい」と回答した。

6. まとめ 今回のような継続的なアンケートという手法は、前回の結果から周囲の人の意見を把握した上で、さらに踏み込んだアンケートを繰り返すことによって、住民の地域居住環境への関心・認識を高めるという効果があったといえる。住民参加という素地や歴史の少ないこの日本において開発を行う際に、このような手法は、住民参加の初期段階における意見集約、合意形成を図るための有効な手法になり得るのではないかと考えられる。